月刊東乳商

第591

東京都牛乳商業組合　平成28年４月20日

●URL http://www.tokyo-gyunyuya.com　E-mail tonyusho@forest.ocn.ne.jp

毎月20日発行・定価1部150円　1年1800円（郵便料共）（昭和47年2月22日第3種郵便物認可）

発行所
東京都牛乳商業組合
代表者 渡邉佳三郎
東京都千代田区岩本町２-11-３
第八東誠ビル７階 〒101-0032

電　話 03－5809－1776
ＦＡＸ 03－5809－1786

タブレット地図ソフト
市乳くんNAVI
ホームページで 動画 公開中！是非、ご覧下さい。
お問い合わせ・資料請求は 0120-5959-92
株式会社オシカワシステム http://www.oskw.jp

公取への不当廉売申告結果報告（平成27年度）

継続して安売りしている

スーパー2件について公取に申告

東乳商では平成27年度も公正取引委員会公正競争監視室（以下、「公取」）に独禁法45条第１項に基づき不当廉売の申告（本体価格１５７円以下）を、２回行った。これらの取組みはスーパーの牛乳安売りを放置しておけば、牛乳販売店の売り上げが益々減少し廃業に繋がってしまうため、これを食い止めるために行っているものだ。３，５５５件のチラシを収集、インプットし、うち１５７円以下の価格で販売しているチラシ２件を公取に申告した。申告書類は公取に郵送、２～３ヶ月後に公取から通知書が返送される。今年度は「関係人注意」等の措置はとられなかった。

集計の結果、前年度と比較すると１４９円以下の価格帯は16ポイント減少の７％（前年度２３％）に、逆に２００円以上の価格帯が11ポイント増加の14％（前年度３％）とトップブランドのＮＢ商品の広告が増加している。また、公取に対する申告件数は前年同様で僅かだが、これは公取からの申し入れ（一度「違反行為なしの」判定をしたスーパーについての翌月以降の申告は見合わせること、低価格での販売を継続しているかどうか厳密に判断する事等）があったためである。しかし継続して低価格で販売している量販店については注視を継続し、さらにヨーグルトの安売りを監視することも検討する必要があり、今後とも組合員のみなさまのご協力をいただきながら、不当廉売に対する監視、申告を継続していくことが重要と考えている。

表；平成27年度価格帯別件数

価格帯	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	計
149円以下	95	50	52	40	237
150円台	296	212	202	212	922
160円台	184	124	154	150	612
170円台	124	74	72	49	319
180円台	84	85	84	74	327
190円台	173	170	164	130	637
200円以上	142	145	113	101	501
計	1,098	860	841	756	3,555

図１；平成27年度価格帯別構成比

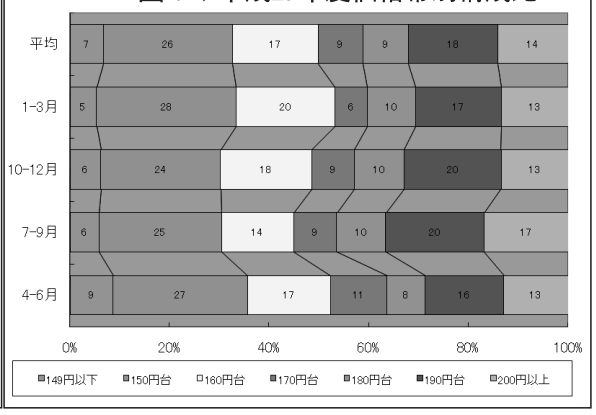
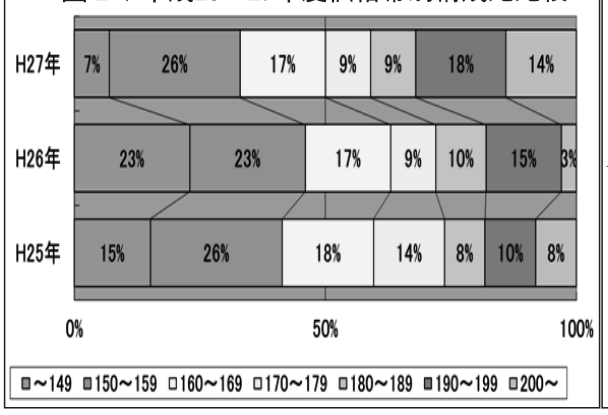


図２；平成25～27年度価格帯別構成比比較



第18回牛乳価格適正化協議会開催

４月６日（水）16時から17時まで東乳商事務所において牛乳価格適正化協議会を開催した。６マーク団体長、都改協、都普協各会長および東乳商理事長、副理事長で構成するこの会議は牛乳販売店業界において廃業が相次ぐ中で、「販売店が安心して経営ができるように、スーパーの不当廉売を阻止し、適正な牛乳価格が形成されるよう販売側関連団体がまとまり、話し合いの場をもつ」ことを目的に、毎年１～２回開催している。

18回目を迎えた協議会では東乳商の平成27年度事業報告および決算見通し、平成28年度の事業計画の基本的考え方、さらに平成27年度の不当廉売申告状況等を説明。また過去４年間、都普協との共同事業として実施した「宅配牛乳ご愛飲謝恩キャンペーン」を今年度も継続して実施するのでマーク団体にも是非一層の協力をお願いしたいと、理事長から出席者に働きかけた。さらに販売店の生き残りを図るための「事業共同化」の取り組みをスタートするにあたり、その基本的考え方を説明した

東乳商　決算理事会及び総代会のお知らせ

27年度の決算及び28年度の事業計画に係わる決算理事会、通常総代会の日程が下記のとおり決定しました。該当者の方は出席をお願いします。

１．理事支部長会（決算理事会）

日　時＝５月７日（土）
　　午後５時30分
会　場＝東京都牛乳商業組合
　　事務所
出席者＝理事及び支部長
審議事項
　総代会提出議案書の審議

※招集通知書は４／19発送予定、出欠のご返事（欠席の場合は委任状）は４／29までにお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

２．第56回通常総代会

日　時＝５月21日（土）午後５時
会　場＝弘済会館（麹町）
出席者＝総代、理事、支部長
（招集通知書は５月９日頃発送予定）

全乳連の動向

●４月22日（金）全乳連、監査会・決算理事会
●５月11日（水）明治・決算説明会
●５月12日（木）雪印メグミルク・決算説明会
●５月20日（金）全改協・定時総会
●５月21日（土）ミルク一万年の会・ブラミルク@東京（第２弾）
●５月24日（火）全乳連、第51回通常総会
●５月27日（金）Ｊミルク・第１回理事会
●６月４日（土）Ｊミルク・「牛乳の日」記念学術フォーラム
　『ミルクの価値　再発見！～未来へのミルクの物語～』
・「ミルクをめぐる食生活と人々の価値意識」
・「日本人の健康とミルクの新しい関係」
・「ミルクの価値とその伝え方」

改善協版

第28回「牛乳販売店優良事例発表会」報告②

先月号に引き続き農林水産省生産局長賞を受賞した長野県のミルクマーケット（雪印メグミルク）の発表内容を紹介する。

「100年の歴史と社会貢献とメディア戦略で知名度アップ」

ミルクマーケット　発表者：小林直彦

1．販売店の歴史及び代表者（発表者）の経歴

明治37年、初代小一郎氏が譲り受けた子牛を本業のかたわら育て、絞った乳を近隣に配ったことから事業が始まり、酪農と自家処理を行い、牛乳を販売。昭和47年頃に卸専門に、平成に入り宅配へのシフトを行う。現代表の直彦氏は町役場勤務を辞め平成12年に店に入り平成28年に「株式会社春夏冬（あきない）」を設立。

2．店舗概要と立地環境

・戸倉駅前に店舗を構えている。近隣には同マークの販売店が2店舗、明治2店舗、森永1店舗、メイトー1店舗あり、競合している。

・コースは週2回午前のみで15コース、車両は持込車を含めて16台で営業している。

3．経営方針：今ここにない未来をつくる

「ミルクマーケットだからできること」

「ミルクマーケットしかできないこと」

「ミルクマーケットらしさ」を目指す。

今やれることを出し惜しみなく出して、地域社会に貢献していく。その中で、子育て中の女性が働きやすい環境を創り、女性に愛される職場として県下NO．1を目指す。

4．活動内容

（1）お客様とのコミュニケーション

① 13年で159回発行しているオリジナル情報誌「勝手にコラム」

・手書きコラムを毎月作成、裏面の有効活用（連絡カード、宅配休み、エコキャップ進捗、利用優待券印刷。

⇓ファンは確実に定着しており、配布を忘れるとお客様から苦情が来る。

「商品は止めたいけれど、コラムだけは欲しい」というお客様も現れた。長期の宅配に貢献。

② 宅配スタート時から続いているお誕生日プレゼント

・ジュース4本とメッセージカード⇓落本率1．9％まで下がっている。

（2）地域社会に対する活動

・独自に「こども見守り隊」を宣言し、全ての車両にステッカー貼付

・配達地域の子供達に目を配っており、有事の連絡係としても活動している。

（3）高齢者世帯への生活支援

・高齢者がいつでも安心して暮らせるように「安心サービス」を無料で提供。

a．ふれあい訪問サービス＝週2回乳製品を配達している場合にはお客様に声をかけて安否を確認する。

b．電話訪問サービス＝ふれあい訪問サービスで安否が確認できないときは、電話をかけて安否を確認する。

c．緊急連絡サービス＝事前に緊急連絡先を登録し、訪問や電話で安否が確認できない場合に緊急連絡先に連絡する。

（4）宅配管理の工夫

① 100年の歴史を看板にして地域からの信頼獲得

② 女性スタッフを大切にする「社員の子育て応援宣言」

・長野県に「社員の子育て応援宣言」登録。

その他豊富なアイデアで有効な施策を打ち出している。

以上

都普協版

日本人の健康と新たな栄養問題

～生活習慣病とフレイル予防における牛乳乳製品の役割とは～

Jミルクが主催する第41回メディアミルクセミナーが1月21日、都内で開催された。今回、神奈川県立保健福祉大学学長の中村丁次氏が「日本人の栄養と牛乳乳製品」をテーマに講演を行った。日本人が抱える新たな栄養問題と、生活習慣病やフレイルの予防における牛乳乳製品の役割について、学び多いセミナーとなった。

過剰栄養と低栄養が混在する現代の日本

伝統的な日本食は、栄養面では必ずしも健康的なものではない。かっての日本の庶民食は貧しいもので、栄養不足により多くの欠乏症、特に「脚気」に悩まされた。戦後の学校給食と栄養教育の普及により、日本人の栄養状態は大きく改善した。そこに牛乳乳製品が重要な役割を果たしてきたことは明らかである。

現代の日本では、過食と運動不足が原因による肥満や生活習慣病が問題視される一方で若年女子・高齢者・傷病者の低栄養も混在するという、新たな栄養問題が発生している。「DoubleBurdenMalnutrition(DBM)」、栄養障害の二重負荷と呼ばれる現象だ。

こうしたなか、国が掲げる健康寿命の延伸という目標を達成するためには、食事と栄養の改善を中心とする生活習慣病全般の見直しが重要になってくる。

病気の発症に対する遺伝と生活習慣の関与を調べた研究論文（「TheNew EnglandJournalofMedicine」、2000年）によると、遺伝の関与は3割、生活習慣は7割だとしている。この結果は、生活習慣の改善で病気の発症を低下させられる可能性を示している。複数の危険因子の個人レベルでの評価と低減、管理が生活習慣病の予防対策の軸になるだろう。

健康寿命延伸にも貢献できる牛乳乳製品

食事と栄養に関しても、最新の研究成果を踏まえた改善が必要だ。例えば牛乳は、近年大規模な横断的研究の結果、摂取量が多い人は少ない人に比べてメタボの発症率が低いことが明らかになっている。また、カルシウムや牛乳乳製品の摂取が多いと、心血管疾患や脳卒中による死亡率が低いという研究成果も発表されている。

日本では2000年以降から高齢者の低栄養が深刻化し、痩せが原因の死亡率が高くなっている。痩せは要介護の前段階であるフレイル（虚弱あるいは衰弱）につながる。

かつて高齢者のたんぱく質摂取は、腎臓に負担を与えるため控えた方が良いとされてきたが、近年では健康な人であれば問題がないことがわかってきた。むしろ低栄養や痩せを防ぐために、高齢者ほど栄養、特にたんぱく質を十分に摂ることが推奨されている。

牛乳乳製品は良質なたんぱく質やカルシウム、ビタミンなどを豊富に含み、血圧上昇の抑制や糖尿病予防にも効果的である。しかも手軽に摂れるため、栄養の過剰と欠乏の問題を解決するうえで最適な食品であると言える。人間が幸せな人生をつくるために、栄養や食事のあり方を考えていくことが今後大切であろう。

（一般社団法人Jミルク資料より）